

桜井城跡発掘調査現地説明会資料

調査期間 平成 28 年 7 月 12 日～継続中

調査面積 198 m²

調査地は桜井城の南西に位置します。今回、桜井地区の土地区画整理事業に伴い当地には市道が整備されることになったため、埋蔵文化財の調査を実施しました。

本調査地の周囲では昨年数回の調査を行いました。調査地の西（27 年度調査地 2）では市道歩道部分の調査をしたところ、奈良時代頃の土器が出土し、同じ時代のものとみられる土坑（穴）、溝を多数検出しました。

調査地の北東（27 年度調査地 1）では近世以降の大型の土坑や戦国時代の大型井戸、連続して掘られた土坑、古代の溝といった幅広い時代の多数の遺構を検出しました。中でも 7 基の大型井戸や並んで掘られた土坑の様子から、戦国時代には生産活動の場であった可能性も指摘されています。

広島市立中央図書館所蔵の浅野文庫の「諸国古城之図」に残されている桜井城の縄張図は、桜井城廃城から約 100 年後に作成されましたが、そこには堀に囲まれた城の図が描かれています。この図を元にした復元では、昨年調査地と城山公園の間に堀が位置し、当該地は絵図の成立した 17 世紀後半には民家があったようです。「古城之図」では「昔ハ士（さむらい）ヤシキ 今ハ民家多アリ」の注記がみられます。

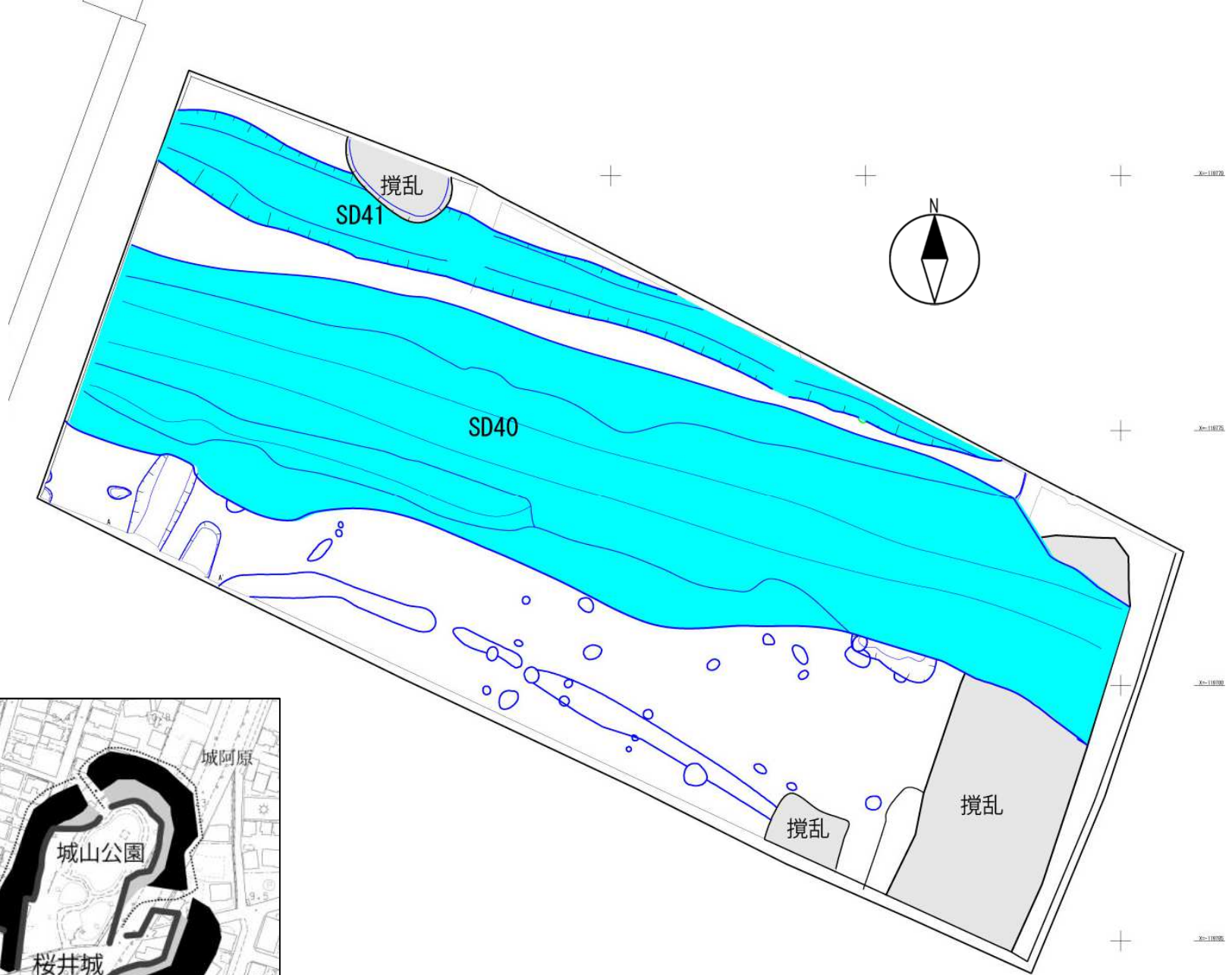
今回の調査では溝や土坑などの遺構を検出しています。調査地のほぼ中央を東西に横切る溝（SD40）は検出面での幅が約 4m、深さは約 1.5m ありました。断面の形は途中で段があり、下は U 字状になっています。溝の埋土の様子から、水が溜まっていた時期もあるようです。

溝の中から出土した土器には播鉢や内耳鍋など戦国時代に使用されたものが多く含まれ、桜井城の存続時期と同時期のものとみられます。その後、溝が不必要になった時に埋められたようです。埋められた時期を探るには、出土遺物の検討が必要です。この溝は「古城之図」には描かれていません。

溝 40 の北にはほぼ並行する溝、SD41 を検出しています。この溝は表土のすぐ下から掘り込まれた、近世以降のもので、その他の土坑やピット、溝は SD40 の北で検出しています。

これからも周辺での調査がありますので、また新しい成果がありましたら報告していきたいと思っています。

遺構の検出状況



調査地と桜井城縄張りの復元

天野暢保「桜井城」『定本西三河の城』1991 を参考に作成